

こんな方は、3～5年に1回以上 心臓検診を受けましょう

※その他の方も、主治医とご相談ください

- ▶ 5歳未満、特に乳児期に
アントラサイクリン系薬剤の投与を受けている方
- ▶ アントラサイクリン系薬剤総投与量が
250mg/m²を越えている方
- ▶ 胸部・心臓にかかる放射線治療を受けて
いる方(特に35Gy以上)
- ▶ 女性は男性よりリスクが高くなります
- ▶ アントラサイクリン系薬剤と
胸部・心臓にかかる放射線治療の
両方を受けている方は、投与量が
少なくてもリスクがあります
- ▶ 下記の方も注意してください
高血圧の方
高血糖の方
高脂血症の方
肥満の方
激しい運動をする方
ストレスの強い方
妊娠・出産時



誰に相談？

- ▶ 主治医 / 外来看護師
- ▶ 循環器科医
- ▶ 成人診療医 など



国立成育医療研究センター
小児がんセンター
長期フォローアップ外来

〒157-8535
世田谷区大蔵2-10-1
TEL : 03-3416-0181
FAX : 03-5494-7909



治療が終わった あとのこと

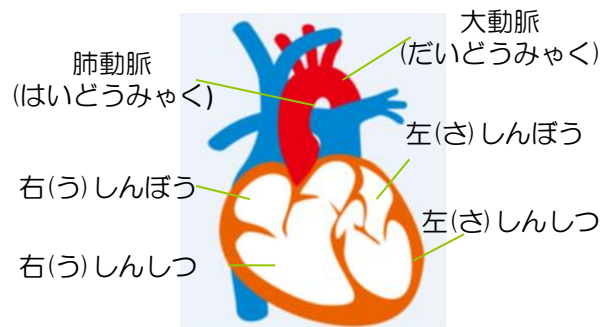
～心臓～



治療が終わった後のこと ～心臓（しんぞう）～

心臓の筋肉（きんにく）は体中（からだじゅう）に血液（けつえき）をおくる、大事（だいじ）な役割（やくわり）をしています。

心臓は4つの部屋（へや）にわかれています



右側（みぎがわ）は、体全体を回ってきた血液（けつえき）を、肺（はい）に送（おく）り、きれいにしてもらおう働（はたら）き、左側（ひだりがわ）は、きれいな血液を全身（ぜんしん）に送りだす働きをしています。

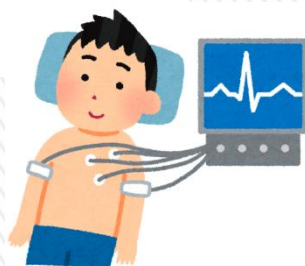
治療（ちりょう）の影響（えいきょう）などにより、知らないうちに、心臓の筋肉にダメージを受けていることがあります。

心臓へのダメージは、乳幼児（にゅうようじ）期に治療を受けた方や女性では、特に影響が大きいとされています。



心筋障害があると、

- ▶ ドキドキする
- ▶ ハアハアする
- ▶ つかれやすい、うごこのがづらい
- ▶ しんぞうの音のリズムがくずれる
- ▶ 体重（たいじゅう）が急に増える
- ▶ 浮腫（むくみ）
- ▶ おなかがあって、くるしい



心臓の検査： 何を調べる？

- ▶ 聴診（ちょうしん）
心臓の音、リズム
- ▶ 心拍数（しんぱくすう）・脈はく
- ▶ 血圧（けつあつ）
- ▶ 酸素飽和度（さんそほうわど）
ゆびさきではかる、さんその値サチュレーション
- ▶ 胸部X線写真（レントゲン）
- ▶ 血液検査
- ▶ **心電図（しんでんず）**
- ▶ **心エコー（ちょうおんぱけんさ）**

影響が出る可能性のある治療

アントラサイクリン系薬剤

ドキシソルピシン(DOX, ADR)
ピラルピシン(THP)
ダウノルピシン(DNR)
ミトキサントロン(MIT)
イダマイシン(IDA)
エピルピシン(EPI)
など

放射線治療

胸部への放射線治療
照射範囲に心臓を含む時

その他

もともと心臓が悪い方
胸の手術
造血細胞移植など

心機能障害の治療

- ▶ 対症療法が中心
- ▶ 定期検診がとても大切



心臓への負荷は、年齢や体格・生活の変化などによっても変わります

- ▶ 成長（からだが大きくなる）
- ▶ 運動負荷（うんどうふか）
心臓の状態により、運動制限があることも
- ▶ 妊娠・出産
- ▶ 腎障害・高血圧・糖尿病